様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2020
課題番号：１６Ｋ０２１９９

研究課題名（和文）熊本実学派と李退渓学に関する比較思想史的研究

研究課題名（英文）A Comparative Historical Study of Kumamoto Jitsugaku School and Yi Toegye Studies

研究代表者
厳　錫仁（Eom, Seogin）

筑波大学・人文社会系・准教授

研究者番号：２０３８７１１１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：熊本実学派の中心人物となる大塚退野、横井小楠、元田永孚の言説の分析を通して、朝鮮の李退渓との接点と、その立場によって江戸思想史（熊沢蕃山、山崎闇斎、荻生徂徠など）を評定する彼らの思想営為を考察した。主な成果は、李退渓との接点は心を重視する心学にあり、それが熊本実学派の理念を貫く基盤であり、その延長線上で、小楠死後、この学派の担い手となった元田の真摯な儒教思想が現れてくることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、李退渓の思想が熊本実学派の思想形成に深い影響を与えたという事実にもう一度立ち戻り、両者の思想内的な接点を心学として捉え、それを江戸思想史に投げかけてみる方法で彼らの思想営為を考察したものである。新しい試みの研究方法であり、日韓の学者をつなぐ心学の観念は、望ましい日韓関係の構築に示唆を与えるものであると考える。あわせて、従来、元田永孚の儒教思想をめぐって揺れのあった評価を確定したことも意義ある見解を提供したと考える。

研究成果の概要（英文）：Through the analysis of the discourses of Ohtsuka Taiya, Yokoi Shonan, and Motoda Nagazane, who were the main figures of the Kumamoto Jitsugaku School, I have examined their contact with Yi Toegye and their ideological activities in evaluating the history of Edo thought (Kumazawa Banzan, Yamazaki Ansai, Ogyu Sorai, etc.) based on their position. The main result of this study is that the contact with Yi Toegye is based on the ‘study of mind’, which is the foundation of the philosophy of the Kumamoto Jitsugaku School, and by extension, the sincere Confucian thought of Motoda, who became the leader of this school after the death of Shonan, appeared.

研究分野：儒教思想

キーワード：熊本実学派　李退渓　横井小楠　元田永孚　心学　皇道主義的儒教

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景
（１）朝鮮の李退渓の思想や学問姿勢が、藤原惺窩以後の江戸時代の儒教、なかんずく山崎闇斎学派と熊本実学派の学問形成に大きな影響を与えたという主張は、すでに日・韓の学界において一つの定説となっている。そしてこうした認識の形成に、阿部吉雄の『日本朱子学と朝鮮』（東京大学出版会、1965）の研究が、先駆的・権威的な役割を果たしたこともよく知られていることである。しかし近年、とくに李退渓と熊本実学派の関係を新しく捉えて、阿部説に異義を唱える主張が報告されている。要点をいえば、阿部が熊本実学派と李退渓の関係を研究した目的は、「日本精神を発揚」し、いわゆる内鮮一体の植民地政策を遂行する「帝国のレトリック」を正当化しようとする、一種の「李退渓利用論」というものである。

（２）もう一つの背景としては、元田永孚が関与した「教育勅語」をはじめとする教育政策に対する、現在に至る一連の批判的状況を念頭に置けば、李退渓の日本儒教への影響は、帝国主義のプロパガンダに利用された犠牲物であるか、保守反動的な固陋な儒学者の遠い先生に位置づけられる厄介な存在となる、ということも想定される。

（３）以上を踏まえて本研究では、李退渓利用論には注意を払わなければならないが、李退渓の思想が熊本実学派の思想形成に影響を与えたという事実までを否定する必要はないという視点において、両者の思想内的な伝承・共感の部分にもう一度光をあてて、その関係を再吟味する。

２．研究の目的
（１）本研究の目的は、熊本実学派を形成する大塚退野、横井小楠、元田永孚などの思想営為を対象に、朝鮮の李退渓学との比較思想史的考察を通して、その展開様相を明らかにしようとしたものである。

（２）その際、熊本実学派のモットーとなる「道徳経世」論は、李退渓の道徳論・儒学的普遍性を軸としながら、一方では熊沢蕃山の影響による経世論・皇道論もその特質として打ち出していくものであるという前提において、熊本実学派と李退渓思想の関係如何、とくに思想内的な接点とその意義について考察する。

（３）さらに、横井小楠の死後、熊本実学派の理念の担い手となった元田永孚の儒教思想の性質について、彼の儒教に加えた皇道主義的言説の検討を通して、新しい見解を提示することを目指す。

３．研究の方法
（１）本研究の主な対象となる熊本実学派と李退渓思想の性質を把握するために、関連する著作・資料を集めて精読し、必要なデータを分類・整理する。重要な著作は以下の通り。『退渓全書』『日本刻版李退渓全集』『退野先生語録』『孚斎存稿』『横井小楠伝記篇』『横井小楠遺稿』『元田永孚文書』『元田永孚』『元田先生進講録』など。

（２）本研究では熊本実学派の思想の性質を論究するに当たって、彼らの言説を東アジア儒教の展開の中に位置づけ、さらに彼らの言及する江戸思想史の学者との比較を積極的に試みる方法を取る。そのために、とくに心論との関係においては山崎闇斎、荻生徂徠、経世論・皇道論との関係においては熊沢蕃山の思想性質の把握が不可欠となる。東アジア儒学史、また江戸思想史の展開の一部として、熊本実学派の思想営為を捉えていく。

４．研究成果
　研究期間中に研究代表者と研究分担者は、国内外の学術会議において研究発表 6 回、国内外の学術誌に 6 篇の論文（翻訳文含む）を発表した。以下、論文を中心に本研究で得られた成果についてまとめる。
（１）「儒学における心」（2016 年）：これは、中国儒学史における心論・心工夫の展開傾向を概観したもので、本研究の中心テーマとなる李退渓と熊本実学派の思想内的な共通点に関わる基礎的な考察にあたる。熊本実学派が激しく批判する荻生徂徠の心軽視の言説を手掛かりとして、孔子、孟子、荀子、朱子学の心論を取り上げ、彼らが心を語って重視する、その目的や背景の事情を論究し、儒教思想において心は人間の思惟機能と存在根拠として位置づけられており、彼らの心を論ずる主な関心は、「人心」といわれる不安定な現実の心をいかに統制し正しくするかに注がれていたことを明らかにした。

（２）「元田永孚の思想形成と展開」（2018 年）：これは、元田永孚の後半期の業績を生み出す、

その基盤となる彼の儒学思想の形成に焦点を合わせて、その内容を考察したものである。「実学」とその基盤となる「心学」を中心として、元田に登場する江戸の儒学者（熊本蕃山、荻生徂徠、林羅山、伊藤仁斎、山崎闇斎）に対する評価を検討し、熊本実学派の淵源となる朝鮮の李退渓と自藩の先輩の大塚退野を通して形成される元田の前半期の儒教思想の特徴を論じた。結論的に、元田の学問形成の過程は、江戸思想史において変容してしまった儒学の本来の姿を朱子学によって追求していったものであり、ここで変容した儒学というのは、心工夫－修己道徳－治人経綸という段階を踏んだ儒学本来の政治的理想が蒸発してしまったものをいい、元田の儒学思想＝実学はそれを取り戻し、その実現を目指したものであった、という見解を提示した。

（３）「熊本実学派における退渓学の受容と影響―退渓学の立場から見た韓日関係の模索―」（2019）：これは、大塚退野、横井小楠、元田永孚の言説にみえる退渓学の受容様相を再検討し、熊本実学派の学者たちと退渓学との一次的な接点と影響は心術工夫＝心学にあったことを明らかにしたものである。これを確認する具体的な作業として、熊本実学派の学者たちの李退渓評価と、荻生徂徠と山崎闇斎に対する批判的な言説を詳しく検討し、これは日本思想史における退渓―熊本実学派の位置や思想的特徴をあらわす装置的な意味を持っていることを論じた。そして最後に、この心術工夫の重視は天人合一論と相俟って、他国との関係（外交）において「是(まこと)心」、「天地仁義の大道」と「至誠惻怛」の態度、実生活のなかの「人を愛する心の仁」に基づいてこそ望ましい日韓関係も築かれることを、退渓と彼の後継者としての熊本藩の学者たちが示唆している、という見解を提示した。なお、この論文は韓国語論文と英語論文としても発表した。

（４）「元田永孚の儒教思想の座標―儒教と皇道主義の間―」（2021）：これは、前述の「元田永孚の思想形成と展開」の後続篇にあたるもので、人生の後半期に明治天皇の側近となり、当時の西洋近代化の流れにあって、いわゆる保守反動の儒教主義的な政治・政策の復活を主導した、元田の活動の思想的意義を論じたものである。儒教思想を活動の基盤としながらも、天皇中心の皇道主義をそこに持ち込み、儒教経典を「皇道の訓解」などとして表現する元田の思想営為を、革命論と血統論への認識、「皇道の訓解」の意味という二つに焦点を当てて、儒教に加えた皇道主義的言説の思想史的位置づけを再検討した。革命論と血統論の検討においては、元田の主張を熊沢蕃山との比較、さらに東アジア儒学史に照らしてみることで、革命論を是認せず血統論を既定の事実として、君主の君徳培養に強調したのが元田の一貫した姿勢であり、それは日本思想史における典型的な儒学者の立場を示すものであったことを論じた。「皇道の訓解」の検討では、「三種の神器」の意味を儒教テキストによって裏付けようとする元田の言説を対象として、それは奥深くて知り難い皇道を教えやすい儒教によって補完するという意味を越えて、元田の思考では第一に儒教という絶対的・包括的なスタンダードがあり、その限りにおいて皇道の意義づけを行っていた、という見解を提示した。結論的に、元田は堯舜の王道政治を明治前期において本気で実現しようと臨んだ時代錯誤的な儒学者であり、また時勢に手遅れの認識もみられるが、それは彼が誰よりもまじめな儒学者であったことに起因するものであり、さらに彼の主張は後日の露骨な儒教的な皇道主義とは違うものがあることを明らかにした。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 Eom Seogin	４．巻 VoL.2, No.2
２．論文標題 Acceptance and Influence of Toegye’s Philosophy in the Kumamoto 熊本 Jitsugaku 實學 School: The Search of a Korean-Japanese Relationship from the Position of Toegye’s Philosophy	５．発行年 2019年
３．雑誌名 The Journal of Toegye Studies	６．最初と最後の頁 65-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 嚴錫仁	４．巻 23
２．論文標題 Acceptance and Influence of Toegye Study in Gumamoto Jitsugaku School（韓国語論文）	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Yeongnam Toegye Studies Institute	６．最初と最後の頁 73～110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.33213/THLJ.2018.0.23.73	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 嚴錫仁	４．巻 35
２．論文標題 熊本実学派の退渓学の受容と影響 ―退渓学の観点からみた日韓関係の模索―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 倫理学	６．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 嚴錫仁	４．巻 27号
２．論文標題 元田永孚の思想形成と展開	５．発行年 2018年
３．雑誌名 倫理研究所紀要	６．最初と最後の頁 116～138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 嚴錫仁	４．巻 765
２．論文標題 儒学における「心」（一）	５．発行年 2016年
３．雑誌名 倫理	６．最初と最後の頁 16－23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 嚴錫仁	４．巻 766
２．論文標題 儒学における「心」（二）	５．発行年 2016年
３．雑誌名 倫理	６．最初と最後の頁 16－23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 嚴錫仁	４．巻 0
２．論文標題 元田永孚の儒教思想の座標―儒教と皇道主義の間―Motoda Nagazane’s standards of Confucianism-between Confucianism and Emperor Centralism	５．発行年 2021年
３．雑誌名 F1000Research	６．最初と最後の頁 1~18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.12688/f1000research.51001.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　5件／うち国際学会　5件）

１．発表者名 嚴錫仁
２．発表標題 元田永孚の儒教思想の座標
３．学会等名 筑波大学哲学・思想学会第４１回学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 嚴錫仁
２．発表標題 元田永孚の儒教思想の座標
３．学会等名 筑波大学哲学・思想学会第４１回学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 嚴錫仁
２．発表標題 熊本実学派の退渓学受容と意味
３．学会等名 第27次儒教思想と退渓学国際学術会議（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 佐藤貢悦
２．発表標題 日本儒教勃興期の思想状況に関する再検討
３．学会等名 第27次儒教思想と退渓学国際学術会議（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 嚴錫仁
２．発表標題 儒学中的心（儒学における心）
３．学会等名 「文化伝承発展と徽学研究」国際学術討論会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 佐藤貢悦
２．発表標題 日本思想における習合について
３．学会等名 2017年国際学術大会「東アジア伝統哲学と仏教の出会い」（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 嚴錫仁
２．発表標題 元田永孚の学問形成と退渓学の影響
３．学会等名 第26回退渓学国際学術会議（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	佐藤　貢悦 (Sato Koetsu) (80187187)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関